

平成 29 年 11 月 21 日

HP をご覧頂いている皆様へ

全国米穀販売事業共済協同組合

平成 29 年における米穀の価格状況について

平成 29 年産米の全国作況は平年並みの「100」ではありましたが、主食用米の作付面積が減少したことから、収穫量は前年より約 19 万トンの減少となり、米価は 3 年連続で値上がりとなっています。そのため、本年における原料玄米の仕入れを巡る状況には、大変厳しい状況にあります。

つきましては、お取引先の皆様へは、米穀の価格状況等に関する諸事情をご理解頂きますようお願い申し上げます。

平成29年11月

お取引先の皆様へ

全国米穀販売事業共済協同組合



### 平成29年における米穀の価格状況について

全国米穀販売事業共済協同組合（以下「当組合」）は、米穀販売事業者（約150社）で構成する米穀流通の全国団体です。本年における原料玄米の仕入れを巡る状況には、大変厳しいものがあります。

米については、高齢化、人口減少による米の消費の減少が見込まれる中、需要に応じた生産を推進するため、米以外の麦、大豆、飼料用米等の作物の生産拡大を推進する米の生産調整が行われております。近年は需給が引き締まり、平成27年、28年と米の価格は上昇したところです。

平成29年産米についても作況は全国では平年並みの「100」ではありましたが、作付面積が減少したことから、収穫量としては前年に比し約19万トンの減少となりました。

このため、本年（平成29年）産米の価格については、流通の太宗を占めるJA及び全国農業協同組合連合会の価格及びこれら以外の流通価格も昨年に比べ1割方上昇しているところであり、3年連続の上昇となっております。とりわけ業務用については、生産調整のミスマッチにより需要に見合う生産が行われていないことから不足感が強く、銘柄によっては昨年に比し1割強方、仕入価格が上昇しているものもあるところです。

このような状況の中で、当組合員は安全性向上に向けた施設設備の充実や人件費、物流費等のコスト増に対する経営の合理化を重ねて参ったところですが、精米価格の太宗を占める仕入価格の3年連続の上昇は、吸収することが困難であります。

今後とも、信頼のおける仕入先を厳選しながら、良品質の精米製品の納入に努めて参りますので、皆様への納入価格につきましては、これら諸事情をご理解いただきますようお願い申し上げます。